

にいがた文化

第11号

2026年3月

目次

- 今号で名前が登場する県人=日本画家岩田正巳、初代会津八一記念館館長小柳胖、書家弦巻松蔭、小説家火坂雅志、応用微生物学者坂口謹一郎、漢学者諸橋轍次、日本画家尾竹越堂、竹坡、国観

■ 事業報告 ————— 2～3

◆ 企画展、講演会

◆ 特集 企画展関連シンポジウム

- ① 基調講演要旨 3
- ② 3パネリスト報告 4～5
- ③ 全体討議 6～7

■ 論考 書家弦巻松蔭と上田桑鳩 —

伊豆名皓美
(にいがた文化の記憶館学芸員)
8～9

■ 偉人の顕彰に情熱……

故神林恒道初代館長 ————— 10

■ 協賛企業・法人広告 —————

「文化力 発信します伝えます」
10～15

■ 新潟県内の文化人顕彰施設・

団体のPR情報 ————— 10～16

■ 令和7年度「法人パスポート

会員、維持会員」、協力企業 — 15

- 編集後記・利用案内 16



弦巻松蔭は、戦後新潟の書壇形成に大きな役割を果たした書家の一人。雄渾な線の特徴とする書風に加え、創作の厳しさや喜びを伝える指導によって多くの門下を育てた。

《人生堂々》は文字の重心移動と飛墨が生む躍動が印象的で、書が本来もつ造形芸術としての魅力を体現している。師・上田桑鳩の造形理論が息づく一作。（詳しくは8～9ページ）

弦巻松蔭《人生堂々》1988年頃

(新潟市北区郷土博物館蔵)

活動報告

《7年度》

企画展

作家では大和絵に現代の息吹を取り入れた日本画家岩田正巳（三条市出身）と書家の弦巻松蔭（旧豊栄市＝新潟市北区出身）を取り上げた。戦後80年の節目に当たり戦争とメディアを考える展示（「捕虜になった記者小柳胖」を開いた）。

岩田正巳

「日本画の新境地を開く」

（前期4月1日～5月18日、

後期5月20日～7月6日）

岩田正巳（1893～1988年）は、歴史物語などを題材とする大和絵の古風な形式性に、現代の息吹を取り入れようと、歴史画の理想を追求した。また、現代風の花鳥風月や人物画にも筆をふるい、気品ある画風で日本画の新境地を開いた。

展示には三条市や新潟市新潟美術館、新潟日報社から協力をいただいた。《坂上田村麻呂》などの歴史に題材をとった作品や、仏画を模写したものの、《初秋》《牡丹》《ぶどう》といった作品ほか、多くの下絵を展示した。監修者の美術評論家横山秀樹さん所有



の岩田作品の絵はがき約70点も展示。岩田の画業の足跡を知るうえでの貴重な資料として目を引いた。

横山さんは講演で「日本画家岩田正巳の制作について」語った。横山さんは作品を年代順にスクリーンに映しながら、技法や題材の変化といった作品の特徴を、時代背景も交えながら解説。また岩田が日本芸術院会員に選ばれたときのエピソードや穏やかな人柄だったことなどを紹介、親交の深かった横山さんならではの話に聴衆は聞き入った（6月25日、日報ホール）。

書家弦巻松蔭と師上田桑鳩

（11月26日～8年3月8日）

弦巻松蔭（1906～1995年）は、葛塚（のちの豊栄市、現新潟市北区）の出身。上京して書家の上田桑鳩に師事した。戦後県内外の書壇を牽引し新潟の書文化の振興に尽力した。師の桑鳩は書を芸術として高めた先駆者で、その思想は松蔭によって新潟県内にもたらされた。松蔭の作品を保存し顕彰を続けて

きた新潟市北区郷土博物館の所蔵品で構成した。（関連8ページ）

その他イベント

◇明和義人祭記念トーク（8月24日、メディアシップ）Ⅱ写真ⅠⅡ

明和騒動をテーマにした『新潟樟きぬた明和義人口伝』（小学館）の作者小説家火坂雅志さん（新潟市出身）の没後10年に合わせて開催。火坂さんの妻中川洋子さんと、小学館の編集者矢澤寛さんが、火坂さんの人と作品について語った。



義を重んじた雅志さんの、妻洋子さんへの愛溢れるエピソードの数々に、詰めかけた1000人余りが聞き入っていた。

■明和騒動 約250年前、当時の新潟町で、長岡藩の圧政に苦しむ人々が2カ月間、自らの手で町政を行った市民運動を指す。涌井藤四郎と岩船屋次兵衛が中心人物。

学校との連携

◇職場体験 新潟市立鳥屋野中学校2年生2人（7月2、3日）、同上山中学校2年生3人（9月17、18日）

館内廊下に貼ってある県内外の博物館・美術館のポスターの貼り替え、受付での来館者対応では現金とチケット、出品目録の受け渡しをした。館の案内文書の送付作業をしたり、当館リーフレットの整理をしたりした。

出前講座

◇「諸橋轍次と『大漢和辞典』辞典を編さんした新潟人」（5月14日、新潟市江南区亀田地区コミュニティセンター）Ⅱ伊豆名皓美学芸員（亀田福寿大学探訪部の授業の講師として）13巻に及ぶ漢和辞典を編さんした諸橋博士の偉業とともに三条市の諸橋轍次記念館の様子を動画で紹介した。参加約50人。

◇「日本画家尾竹3兄弟Ⅱ越堂、竹坡、国観」（10月4日、新潟市・ゆいぽーと）Ⅱ石垣雅美学芸員（ゆいぽーとの企画事業の講師として）

新潟市出身の3兄弟についてその生涯や作品を紹介。新潟市の潟東樋口記念美術館の前館長・中島栄一さんが明治・大正期の美術界の動きを解説した。参加25人。

その他

◇良寛会から寄付（9月11日）

一般財団法人良寛会（新潟市、長谷川義明理事長）が財団を解散し、その清算金48万円余りを当館に寄贈。良寛は書に秀で、多くの歌を残した。当館は良寛を新潟の文人の理想と位置づけ、館内にパネルを置いて紹介している。

企画展続き

戦後80年

捕虜になった記者小柳胖

（7月29日～11月3日）

新潟日報第4代社長小柳胖（おやなぎゆたか、1911～86年）は、戦時中、編集局長として国策に協力する紙面づくりをしていたが、応召し戦地で捕虜に。ハワイの捕虜収容所で戦争終結を目的とした対



日宣伝ビラ（伝単）づくりをした。ビラは日本への爆撃を予告し、投降を呼びかけ厭戦気分をさせるのが目的。

戦地から家族に宛てた小柳の手紙

や、収容所で新聞についてつづった所感など展示Ⅱ写真上Ⅱ。新聞人小柳の苦悩や葛藤。戦争情報とメディアとは、を問いかけた。

■終戦を決断させた宣伝ビラ

（土屋教授の講演要旨）

戦時宣伝ビラは対象が敵、味方、中立国向けとある。心理戦の中で使われたメディアで、主に戦力が勝っている方が侵攻するときに使う。最初に対日宣伝ビラを作ったのは米軍ではなくオーストラリア軍だと突き止めた。1942年7月、ミッドウェー海戦で日本側が被った戦力の損失状況を「軍人諸君」と呼びかけて報じた。イギリス軍の1942年ころのビラ「祖国日本の頼みの綱 航空母艦沈没」もミッドウェー海戦のこと。

□捕虜になるのは恥

「戦陣訓」で捕虜になるのは恥で、自裁せよと教えられた日本兵を投降させることが重要だった。自爆テロをされたのでは損傷が大きい。「大死にはやめよ、生きて今後の日本に尽くせ」と呼びかけて、白旗の代わりにビラを掲げたら撃たないよと投降を促すビラが何種類も作られた。マッカーサのもとで作られたビラには英語で「私は抵抗をやめた」とある。投降ではなくて抵抗しないという文言。日本人は捕虜になることに非常に抵抗があることを、尋問で聞き取ってそ



ういう言葉を入れた。仏壇の前で手を合わせる母子の写真を使ったものがある。これはノスタルジーというオーストラリアで生まれたジャンルの一つ。どういう内容が日本人の心を動かすか試しながら作っていた。

◇「捕虜になった記者小柳胖」関連

シンポジウム

「戦争とメディアを考える」

（10月11日、日報ホール）

早稲田大学大学院の土屋礼子教授

が戦時宣伝ビラについて講演Ⅱ左Ⅱ。

日本新聞博物館の工藤路江学芸員、新潟放送の吉井一善報道局長、新潟日報の森澤真理特別編集委員がそれぞれの立場から報告した（4ページへ）

アメリカの戦時情報局が作ったビラ「運賃無蔵」。一人の兵士が不運にも死んだ。本当に天皇のために命を捧げたのかと疑問を呈し、天皇は平和を望んでいて悪くない、悪いのはいい思いをしていた軍閥だ。身を捧げた「無蔵」を母親から奪ったのは誰だーと訴えるストーリーだ。挿絵を日本人画家が描いていた。

米軍の心理戦の拠点がインドのアッサムにあった。投降を促すビラづくりに日系2世が協力した。「新しき米人観」といって捕虜になった日本兵が看護を受けてアメリカ人に対する見方が変わったという実際の手紙を用いた内容。「アメリカの捕虜になっても大丈夫」だと告げる。ハワイには日系人が多くいた。アメリカ人として戦争に協力していることを宣伝で認めさせ、プロバガンダに協力させた。

□ポツダム宣言を翻訳

本土空襲が始まると、空襲予告のビラが作られ、実際にいくつかの都市で空襲があった。小柳さんが関わったのは「マリヤナ時報」というニュースを伝えるビラで、その号外というはがきより小さいものも作った。原爆完成、ポツダム宣言受諾など小柳さんたちのグループが翻訳したビラが日本でまかれた。これらのビラで終戦の決断が確実になった。（写真Ⅱ土屋礼子教授）

■つちや・れいこ 一橋大学大学院博士課程修了。社会学博士。主な著書「対日宣伝ビラが語る太平洋戦争」「占領期のメディアとインテリジェンス」ほか多数。専攻はメディア史研究、歴史社会学。1958年、長野県出身。

—森澤氏は、新聞社オーナーの家に生まれた小柳胖の生い立ちから応召、そして戦地での捕虜体験と、戦争に翻弄され数奇な運命をたどった半生を語った。

× ×
小柳胖は新聞社のオーナーの家に明治44（1911）年に生まれた。根っからの新聞人。父・調平は新潟日報社の初代社長を務めた。

早稲田大学を出て同盟通信社に勤務。のち、父の経営する新潟毎日新聞社に入り取締役副社長になった。

戦時中、県内の新聞社が一つにまとめられ、新潟日報が誕生した。小柳は取締役編集局長で工務局長を兼務した。昭和19（1944）年、召集令状が来た。このとき33歳。

激戦の地で生き残る

小柳は硫黄島へ送られた。硫黄島は装備も良くない。日本軍は地下壕をたくさん作って、そこに潜んで米軍とゲリラ戦を繰り返した。日本兵の95%がなくなっただけというすさまじい戦場だったと言われている。生き

残っただけでもすごい。

米軍とは兵力も圧倒的に違う。水が悪く、兵士が体調を崩していき、小柳も入院していたため助かったとも言われている。

投降を促されたとき、ジュネーブ条約（捕虜や傷病者の保護などを定めた条約）のを知っていた。自分たちも保護してもらえる可能性があると考え、投降を決意した。

日本兵には戦陣訓（生きて捕虜になる恥辱をうけない）の一節があるという縛りがある。多くの日本人兵が（捕虜になるくらいなら）自ら命を絶ったということも多かった。

1945年8月15日終戦。ポツダム宣言受諾。終戦を早めたというのが、土屋先生のお話にもあった対日宣伝ビラ、伝単だ。小柳は戦死したと思われていたが、捕虜となってハワイに送られた。真珠湾の特別捕虜収容



森澤真理氏

所で伝単制作に携わっていた。朝日や同盟の記者も一緒だった。

捕虜体験は語らず

小柳の復員は1946年10月。新潟日報の取締役に復帰するが、戦争を推進したことで公職追放される。追放が解かれ社に戻り、56歳で社長になった。

小柳は捕虜体験と伝単に関しては表立っては語らなかったといわれて

—日本新聞博物館で令和7年9月6日〜12月21日、企画展「戦後80年戦争を伝える」が開かれた。企画に携わった同博物館の学芸員工藤路江氏が、新聞が戦争をどう伝えたかについて、展示を紹介しながら報告した。同展では小柳胖のコーナーも設けられた。

× ×

満州事変は平和を支持していた新聞社が転換していく時期。受信契約を伸ばしていたラジオに対抗するために、写真入り号外を発行した。日中戦争以降は総動員体制によって言論統制が強化され、政府はメディアを宣伝に利用した。情報局新聞統合

いるが、多くの資料を保存して残してくれた。現代に生きる私たちが小柳の言つてをどう受け止めるかだ。■もりさわ・まり 1982年新潟日報社入社。文化部長、論説編集委員室長などを経て特別論説編集委員。新潟市のいがた市民文学エッセイ・評論部門選者。著書に「地方紙と戦争」。1960年、南魚沼市出身。

関連文書という資料がある。情報局とは、出版言論統制を実施する内閣直属の機関だ。

戦争の実態「伝単」

大本営が戦争報道を独占していた。「米空母の損害2隻撃沈」と見出しにあるが、実際は1隻だ。つまり、日本軍の戦果を誇張していた。逆に日本軍の「全滅」を「玉砕」と言い換えて発表した。

「伝単」について。正確な戦況や国際情勢が伝えられていない日本国民に、米軍の戦略的なビラが戦争の実態を伝えたという位置づけだ。

企画展では、「新聞・言論人の葛藤」というエリアに「マリヤナ時報

「小柳氏の残したものをどう受け止めるか」（森澤真理氏）、「ベトナム反戦運動はメディアが世論を動かした例」（工藤路江氏）、「小柳氏の苦悩が推測される」（吉井一善氏）。戦後80年をテーマに取材・企画に携わった3氏が報告した。

工藤路江氏



と日本の新聞人〜というコーナーを作った。戦時下の戦

争協力について、当時の新聞記者、言論人たちがどのような考えを持って行動していたのか、人に焦点を当てた。

〈マリヤナ時報〉のコーナーでは、日本では戦時体制に協力していた新聞記者たちが、平和を願って米軍のビラの作戦に協力したことを紹介している。小柳さんと、小柳さんも関わったマリヤナ時報の号外と、「日本の皆様」の2点を紹介している。

事実の報道は、ジャーナリズムの原点。小柳さんたちの経験は、戦時下において、その原点に戻る機会を得た事例と捉えている。

非常時こそ真価

ベトナム戦争は、メディアがベトナムの市民の惨状を伝えたことで、世界で反戦運動が拡大していった。メディアが世論を動かした事例とも言われている。

新聞は戦争を記録し続ける歴史資料だ。戦時下、正確な情報を伝える

かったという負の歴史も含め、戦争とメディアの実態がわかる。フェイクニュースや未確認な情報があふれる現代においては、報道機関の存在意義は高まっている。戦争や災害といった非常時こそ、新聞は真価を発揮すると考える。

17年8月15日、BSNテレビで「新聞記者 小柳胖の戦争〜売国奴と呼ばれて〜」が放送された。BSN報道制作局次長の吉井一善氏が制作した。吉井さんは戦地で捕虜となった小柳さんの尋問調書をアメリカの国立公文書館で探し出し、その内容をもとに番組を作った。

× ×

経営者としての苦悩

調書で一番印象的だったのは「戦争を支援する記事だけを新聞にした」という供述だ。尋問官に、それはジャーナリストとしての義務と矛盾しないのか聞かれ、私が小柳さんの立場だったら、嫌な質問だなと思うが、そういったことにもちゃんと答えている。「それは東洋と西洋の真理の違いだ」と。一番小柳さんのジャーナリストとしての、葛藤が出ていたところだと思った。

■くどう・みちえ ニュースパーク（日本新聞博物館）学芸員。新聞ライブラリー（日本新聞博物館併設・現在は閉館）司書を経て2016年から現職。資料収集・保存・企画展示を担当。1977年生、秋田県出身。

1943（昭和18）年の年末に政府が報道関係者を集めて矛盾する報道は一切するなど要求した。小柳さんはいろいろな情報で、戦争に勝つ見込みは少ないと思っはいたと思うが、取締役編集局長という経営者でもあったので、指示に従わざるを得なかった、苦しい立場だったのかなと推測される。

尋問調書が見つかった経緯だが、小柳さんの話は二年前ぐらいから知っていた。

アメリカの国立公文書館の資料を調べるには専門のリサーチャーを探さなければならぬ。できればベテランのリサーチャーに頼みたいと思っていた。



吉井一善氏

またまた、手にしたNHKスペシャルの、制作過程と

リサーチャーの名前が書いてあり、知り合いのディレクターからつないでもらうことができた。依頼のメールをしたら、「尋問調書が見つかる可能性は低い」という返信が来た。理由は「捕虜は本名を語らなかつたから」という。捕虜の偽名で一番多かったのは「長谷川一夫」だという。当時の時代劇の二枚目スターの名前だ。

干し草の中から針

幸運にもリサーチ開始から6日目ぐらいに尋問調書が見つかった。アメリカに「干し草の中から縫い針を探す」という諺があるそうだが、それほど大変な作業だったとリサーチャーが言った。

小柳さんは捕虜体験のことを語らなかつたけれど、戦後80年、「そろそろ話してもいいかな」と思われて、天国から調書を見つけることを、なんか後押ししてくださったんじゃないかなと思う。

■よいい・かずよし 新潟放送報道制作局次長兼報道制作部長。1993年新潟放送入社。ドキュメンタリー「日本人妻大原芳子さんの場合」北朝鮮帰国事業と新潟で民間放送連盟賞などを受賞。1969年、上越市出身。

4氏は先の大戦における戦争報道を振り返り、今もウクライナなど世界で戦火が絶えない中、報道の在り方を話し合ったⅡ写真⑤、次ページⅡ。

拾って読めた宣伝ビラ

土屋 終戦を早めたのは、ポツダム宣言の全文が掲載されていた「マリヤナ時報」(宣伝ビラ)の号外だったと思います。一般の新聞には宣言受諾というようなことを政府が検討しているという話もほとんど載っていないかった。内容自体を直接、日本国民が知るようにしたことが大きい。

新聞やラジオ報道ではなく、一般の人でもその辺に落ちていたのを拾って読むことができるビラで宣言の内容受諾で戦争が終わると告げた。日本の首脳陣、政府、メディアが結託して国民に隠していたことを一足先に知らせたことに意味があった。

天皇や軍部首脳陣もビラを拾って、事態が進行していることを知った。



日本のメディアが機能してないということをお知らせをあらかじめまにした。そういうビラを拾って集めて読んでいる人も

いた。少数の人であっても情勢を認識している人がいるということが、軍部や政府首脳陣の判断にも入り、終戦の後押しをしたのではないのか。

小柳さんに興味抱く

森澤 吉井さんはどうして小柳胖にひかれ、この番組を作ろうと思ったのか。

吉井 2年前、北朝鮮帰国事業の番組制作のとき、森澤さんの著書を読んで(そこに書かれていた)小柳さんにすごく興味を持った。これは戦後80年にどうしても番組を作らないといけない、小柳さんの尋問調査を採ることにした。

兵庫県知事選挙とかジャニーズの性加害問題で、SNS上では報道メ

土屋 ビラに捕虜の写真を載せる場合には、軍の心理戦の中で非常に神経を使い、何回も方針が変わることがある。ビラの一つに

捕虜の仲間と小柳さんが敵の軍人ともにこやかに

写っている写真がある。アメリカ軍の資料にもなく珍しい。捕虜は特別な扱いだったので、その写真もだいたい

ディアはマスゴミだと揶揄され、自身の狭い思いでいた。過去、マスコミ自体が窮地だったのはいつだったか、終戦時だったのだろう。その時、ジャーナリストたちがどんなふうを考えて、どんなふうに仕事をしていたのかと興味を持った。

森澤 新聞博物館の企画展で新潟日報の小柳たちのコーナーを作った。

工藤 企画展の2章の前半は、戦時中の報道紙面を並べ、軍部の指示や戦意高揚を発信していた当時の報道内容の紹介。後半は新聞記者たちが何を思っていたのか、新聞・言論人の葛藤というコーナー。その中に「マリヤナ時報コーナー」を作った。

戦意高揚への協力を行っていた新聞人たちが、日本の降伏が平和をもたらすと信じて米軍に協力したという解説文を添えた。

米軍のビラは、戦略的な性質がある。日本を降伏させたい米軍と、平

機密扱いだった。こういうビラが作られて残されているのは小柳さんらの活動のすごく生々しい証拠かなと思う。

ビラに捕虜の写真

ビラにはその兵士の命を、本当に紙一枚で決定するような重みがあつて、そのことを真剣に考えて作った人たちがいた。そういう攻防戦というのをぜひビラから読み取ってほしい。

和を実現したい捕虜たちの利害が一致して生まれたものだ。小柳さんたちは、正確な情報を伝えるというジャーナリズムの原点に戻る機会を得ることができた事例として、いい意味で異質な展示になっているかと思う。

重い選択をした

ーにいがた文化の記憶館で開いた企画展では小柳さんのつづったジャーナリズム論(馬のいばり)、捕虜体験者の座談会の記録などが展示された。

土屋 「座談会」の原稿を読むと、「捕虜」の捉え方が現代の人が思うのと違う感覚を小柳さんは持っていたと感じた。戦争に協力するのが当たり前として育った世代として、捕虜になるのは反逆罪だと語っている。簡単に言うのは反逆罪だと語っている。簡単に言うのと裏切り者。そういう思いを持ってビラ作りに協力したのだということ。そのことがすごく重みがある。

森澤 私もそれを感じた。小柳胖が表立ってこの捕虜体験を語らなかったのは、自分は戦前から経営者で、戦争推進にも協力したからだと思う。ビラづくりが正義の選択だったのか反逆罪なのかどうなのかと葛藤を抱えていた。ただ、資料を残したことは、自分が抱えた重い課題を

私たちにも、分かってほしい、考えてほしいという気持ちがあったのではないか。

編集目的で変わる事実

工藤 「馬のいばり」冒頭に「新聞とは事実を報道しないものだ」という定説がある」とある。その定説が生まれた理由としては、事実は受け手によって印象や捉え方が変わってくと。事実とは何かという疑問が存在しているからだという点を挙げていた。確かにそうで、批判的な見方を身につけて、情報というのは思い込みや先入観に気をつけながら向き合っていく必要がある、というメッセージだと受け取った。

土屋 現在のジャーナリストたちにも共通している話。新聞が提供する事実とは何かを問い詰め、最後に小柳は「要するに編集目的が何にあるかによって記事が違ってくる。事実の提供の仕方が違ってくる」と。戦争中は戦争に勝つための事実を提供することが正しいというのが彼の哲学だったのではないか。

戦争がもうどうにもならないとなったら、やめさせるための事実を提供することが彼の方針だったのだらう。ジャーナリストは常に客観的な事実という言い方をするが、どう

いう事実を提供するかというところでもすごく迷い、編集でも社説でも重要な部分だと思っています。

森澤 根っからの新聞人である小柳胖は、新聞とは報道とは何かということを考え続けた。現代の私たちは、小柳胖の体験や残したものをどう受け止めればいいのか。

吉井 番組制作中に、世界の報道の自由度ランキングを確認した。



2025年度、日本は66位、アメリカは57位。背景には記者クラブ制度があった、フリーや外国人記者が差別的な扱いを受けている。特定秘密保護法というようなものがあり、原子力発電所や軍事基地などの情報は限られていて。少しずつ順位を上げていかなければいけないのでは。

森澤 報道は平時には人間的な生活ができるように、弱い立

場の人を守って頑張っていくというのが基本だと考える。戦争状態になると全く逆になり、命を粗末にして国が勝つためにいろんな資源を全部投入しろということになる。報道は、平時には権力と緊張関係にある。権力のチェックをしながら、民主主義を基盤とする社会をつくっていくという役割がある。平時から報道の役割は何かと考えていく大切さを改めて感じた。

ネット上で心理戦

工藤 本来、戦争とか戦争報道に関する検証は、節目の年にかかわらず常に行っていくべき事柄だ。戦争体験者から直接話を聞く機会が減っている。各新聞社の企画は遺族から

森澤 小柳は三つの決断をした。硫黄島での投降。戦争を早く終結させるため伝單づくりへの協力。こうやって資料を残すこと。

投降の決断ができたのはインテリだったということもあるが、記者として自分の目で物事を見て判断しようという訓練がかなりできていたからだと思う。今これはどういうことなのか、どうすべきかと、自分の頭で考えることを私もやめてはいけないと思った。

検証を続けるべきだ

歴史の検証の大切さを改めて考えた。戦争末期の言論空間が非常に息苦しいものだったのは確かだ。「非常な弾圧を受けた」「騙されていた」という言い方があるが、積極的に戦争に加担したり、場の空気がとか集団の空気に逆らうのがやっぱり怖いというところが、私たち日本人にはあったりした点もちゃんと踏まえるべきだ。「騙されていた」ではダメなのではないか。きちんと経緯の検証を続けていくことが非常に大事だ。

の証言をもとに展開されているものもかなり多い。今後の継承というのが課題になってくる。

土屋 ウクライナやガザや、戦争が絶えない。ガザでもビラがまかれていて。戦争状態になってラジオやテレビやインターネットが使えなくなる、今でもビラが最後の手段として出てくる。まともなメディアが機能しないとき、戦略的に出てくる。そういう状況はちつともいい状態ではない。

ネット上ではそれこそ心理戦的なことが繰り広げられている。現在の最前線はそこ。どういう映像を流せばどちらの味方になるのかということをやっている最中だ。私たちはそれに巻き込まれている。これは間違いない。そうではないと思う方が鈍感だ。

書家・弦巻松蔭の作品と コレクションが伝えるもの

企画展「書家 弦巻松蔭と師・上田桑鳩」に寄せて

伊豆名皓美

2025年度、にいがた文化の記憶館では、新潟市北区郷土博物館の協力を得て企画展示「書家 弦巻松蔭と師・上田桑鳩」を開催した。2025年は松蔭の没後30年、今年2026年は生誕120年に当たる。本稿では、この展覧会を振り返りながら、弦巻松蔭という書家を後世に伝えていく意義、そして新潟市北区郷土博物館が長年にわたり作品や資料を守り続けてきたことの価値について、あらためて考えてみたい。

作品寄贈を機に書収集始まる

新潟市北区郷土博物館の書分野の収集活動は、1992（平成4）年に旧豊栄市が郷土出身の書家・弦巻松蔭から自作と師・上田桑鳩の作品を含むコレクションの寄贈を受け入れることを決定したことを契機として始まった。

現在、同館には松蔭の作品163点、桑鳩の作品90点を含む書作品301点、関連資料368点、さらに松蔭が生涯をかけて収集した文房

具や拓本・法帖など6304点が所蔵されている。総計6973点に及ぶこれらの資料は、単なる「作品」や「道具」という枠を超え、松蔭の創作の歩み、そして師から受け継いだ学びの深さを立体的に伝える文化資源である。

弦巻松蔭の存在が もたらしたもの

弦巻松蔭（1906～95年）は、新潟県北蒲原郡葛塚町（現新潟市北区）に生まれ、戦前に上京して上田桑鳩に師事した。戦後は郷里に戻り、書家として、また指導者として活動した。雄渾な線の特徴とする書風はもちろんのこと、創作の厳しさと喜びを伝える指導により、多くの書家を育てた。

特筆すべきは、松蔭が新潟県書道協会の創立や新潟県展への書道部門参入に尽力し、戦後の新潟の書壇形成において中心的役割を果たした人物であるという点である。今日、新潟では会派の枠を超えて多様な価値



上田桑鳩《臨比丘道匠造像記》（部分）1967年頃 新潟市北区郷土博物館蔵

を認め合う土壌で書の活動が盛んに行われ、多くの書家が活躍している。その背景には、松蔭が築いた基盤が確かに存在している。松蔭は、新潟の書文化にとって「恩人」ともいえる存在であり、その歩みを伝えていくことには大きな意義がある。

師・桑鳩の思想と、その継承

上田桑鳩（1899～1968年、兵庫県生まれ）は、戦後の書の新時代を切り拓いた先駆者である。西洋

の芸術論を取り入れ、書を「一人の人間による創造的な営み」として位置づけた。その思想は、松蔭を通じて新潟にもたらされ、地域の書文化に新たな視座を与えた。

また桑鳩は書の古典を、単に「形をなぞる」対象としてではなく、そこに潜む美を読み取り、自らの感情を重ねて書くための源泉として重視した。こうした考え方は、桑鳩が門下に与えた臨書折帖にもよく表れている。

桑鳩による臨書論の 実践と啓蒙

「臨書」とは、中国や日本の名跡（古典）を手本として手習いすることであり、古典の優れた点を吸収するための重要な学書法である。桑鳩は、古典の形を忠実になぞるだけの臨書ではなく、古典の中に美を見出し、そこから得た感動を表現する「主観的・創作的臨書法」を主張した。

その思想を伝えるため、桑鳩は1966（昭和41）年から直筆の臨書折帖の頒布を開始した。自著だけでは伝えきれない筆遣いの抑揚や息づかいを、より直接的に門下へ伝えるためである。松蔭旧蔵の桑鳩の臨書折帖は「桑鳩が古典をどう鑑賞し、どう感情を表現したか」を探る貴重な手がかりとなっている。たとえば

中国・北魏時代の楷書を臨書した『臨比丘道匠造像記』は墨を塗った折帖に朱墨で書かれており、用筆の抑揚や迫力が鮮明に伝わってくる。桑鳩が原典の中に熱気を感じたことが、右上がりを強調した点画で表現されているところにも見てとれる。

また桑鳩は父の影響もあって骨董や美術品を好んだ。随筆『蟬の声』（1943年）では、画家を志して断念し、書を志してからは「蒐集癖は法帖のみに注ぐこととなった」（「法帖は」出た時に買わねば再び手に入らぬ」と、多少高価でも求める姿勢を語っている。松蔭もその熱意に影響され、多くの法帖を蒐集した。

松蔭の法帖蒐集

「法帖」とは書の古典であり、学書の手本として用いられるものである。松蔭は生涯にわたり法帖の収集に力を注ぎ、その点数は500点を超える。これほどの規模の法帖を一人で収集したこと自体、驚くべき偉業である。

本展では、松蔭が実際に臨書に用いた痕跡の残る法帖や、師・桑鳩か

ら譲り受けた法帖も紹介した。これらは松蔭の書への情熱と探究心の深さを物語るとともに、書という表現が古典の学びと密接に結びついていることを示している。

線と空間の世界を味わう

上田桑鳩は『臨書新研究』（1953年）の中で、書を「構成美・線美・流動美・余白美・墨色美」の五つが結び合わさって成立する造形芸術であると述べている。文字の形や構成、筆勢が織りなす造形的な面を視覚的に味わうことで、書の美しさは立ち上がるという考え方である。

松蔭や桑鳩の作品に向き合うと、まさにその言葉の意味が実感を伴って迫ってくる。線の強さや余白、墨色などの要素が一体となり、作品全体の気分が静かに、そして確かな力で鑑賞者に語りかけてくる。書は文字を読むだけのものではなく、線と空間がつくり出す世界そのものを味わう芸術であることに気づかされる。たとえば松蔭の『一念不動』と『人生堂々』は、どちらも一行に四文字

新潟市北区郷土博物館とは —書の常設展示が刻んだ16年とその後—

新潟市北区郷土博物館は、1968（昭和43）年に「豊栄町博物館」として豊栄町役場分館の2階に開館した。1981年に現在地の新潟市北区嘉山へ移転。2005（平成17）年の市町村合併により「新潟市豊栄博物館」となり、2011年から現名称を名乗っている。

現在地での開館とともに常設のテーマ展示が始まり、当初は福島潟の自然や民俗を扱っていた。1998年には、豊栄市が1992年に寄贈受け入れを決めた弦巻松蔭コレクションを基に、常設展示のテーマを「弦巻松蔭の世界」へと大きく転換した。これにより、書を中心とした常設展示が約16年間続くこととなった。

しかし2015年、テーマが「阿賀北の大地と人々のくらし」へ改められ、長く続いた書の常設展示は終止符を打った。現在は、常設展示の一角に「郷土の芸術家 書家 弦巻松蔭」コーナーが設けられ、地域ゆかりの書家として紹介が続けられている。

（参考文献：新潟市北区郷土博物館編『50周年記念誌 新潟市北区郷土博物館年報・紀要 2009.4-2019.3』2020年）

書かれた作品だが、作品から感じ取れる気分は対照的である。『一念不動』は繊細な線によって、紙面の明るさが追求された作品。一方『人生堂々』は文字の重心移動と飛墨による表現で、躍動的である。これらの対照的な作品は、書が単なる文字の造形ではなく、線の運動や余白の扱いによって作品の「気分」が立ち上がる芸術であることを示している。

新潟市北区郷土博物館は、松蔭か

らの寄贈を受けて以来、その膨大な作品・資料群を文化資源として位置づけ、展覧会や調査研究を通して活用してきた。今回の展覧会も、同館の長年にわたる資料整理や研究の成果があつてこそ実現したものである。松蔭や桑鳩の作品を鑑賞して書の世界に触れることは、松蔭が寄贈によって託した思い―自らの作品と師の作品、そして膨大なコレクションが博物館で守られ、未来の学びや創作に確かに生かされていくこと―が見る者に伝わる瞬間でもある。

松蔭が築いた新潟の書文化の基盤を、これからも多くの人と共有していきたいと思う。

（にいがた文化の記憶館学芸員）



弦巻松蔭（一念不動）1967年頃（上）、弦巻松蔭（人生堂々）1988年頃（下） Ⅱ いずれも新潟市北区郷土博物館蔵

先人の偉業顕彰と地域文化振興に情熱…故神林恒道初代館長

当館の初代館長、神林恒道・大阪大学名誉教授が、7年12月16日亡くなった。87歳。「時とともに忘れられていく先人の業績を、確かなかたちで次世代に伝えていくのが、今を生きるわれわれの責務」と、にいがた文化の記憶館の設立を提唱し、13年前、開館と同時に館長に就任。會津八一記念館館長も務め、住まいの大阪とふるさと新潟とを往復しながら幅広いテーマで講演や執筆をこなし、両館の展示計画には豊かな着想による助言をしてくれた。専門の芸術学にとどまらず、歴史や文化全般、深く幅広い学識を備え、何より郷土の人たちにふるさとへの愛着と誇りを持ってほしいという強い思いがあった。それがエネルギーギッシュな活動を支えていたのだと思う。

(にいがた文化の記憶館・高岡)

新潟県内の

文化人顕彰施設・団体からの

PR情報

開館日、開館時間など詳細は各施設・団体にお尋ねください。各館の情報は、にいがた文化の記憶館ホームページでも紹介しています。

00 館名／団体名

顕彰している新潟ゆかりの文化人

PASS

住所
電話番号

PR情報

PASS

…この館で「新潟文化の記憶館パスポート」をご提示いただく割引が受けられます。また、この館の「平券」を当館でご提示いただくとお入館料を団体料金に引き上げます。

1 佐渡博物館

佐渡市八幡2041
0259(52)2447

佐渡の自然・歴史・芸能などの資料を展示する総合博物館です。常設展示室のほかにも中庭では佐渡島内の岩石からなるロックガーデンをご覧ください。

2 佐渡歴史伝説館

佐々木象堂

佐渡市真野655
0259(55)2525

順徳天皇の宝物と和歌の世界、日蓮聖人の不屈の精神を展示。世阿弥が雨乞いで舞った伝説をロボットと映像で再現。人間国宝・佐々木象堂の記念館も併設し、佐渡の深い歴史と美意識を体感できる伝説館。お食事処夕鶴では佐渡牛を提供。

NST News タッチ

NST 月～金曜 午後6時09分放送

日本最大級30の専門学校

あらゆるジャンルをカバーする
310学科563コース

NSGカレッジリーグ

コニカミノルタNC株式会社

本社 〒950-0141 新潟市江南区亀田工業団地1-2-13
TEL (025)383-3000 FAX (025)383-3001
URL <http://www.konicaminolta.jp>

富山支店 / 長岡営業所 / 新発田営業所 / 上越サービスステーション

業務内容: コニカミノルタ複合機 bizhub・医療機器・
商用印刷機の販売及び保守
イベント機器のレンタル 他

2025年 就職率ランキング
全国 **第4位!**

就職実績はこちらから

開志専門職大学
KAISEI PROFESSIONAL UNIVERSITY

事業創造学部
経営/経理/商学/商品開発
起業/マーケティング

情報学部
AI/IT/ゲーム/クラウド
ロボティクス/データサイエンス

アニメ・マンガ学部
アニメ/マンガ/ゲーム
3DCG/キャラクターデザイン

見本市・展示会 大会・式典・会議 学術会議 スポーツ・競技会 文化・芸術行事 ディスプレイ

**イベントがつなく、
新潟の未来。**

SHINSEN 株式会社 新宣
<https://shinsen.biz/>

〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-3-4
TEL 025-243-6827(代) FAX 025-241-0768

會津八一が愛した
新潟の和菓子

里仙

本店 / 新潟市中央区古町13
☎(025) 228-9234(代)

3 平出 修の会

平出 修

新潟市東区中野山4-2-19
090(1125)1058

計画として、生誕地・東新潟エリアの地元の皆様との連携企画、「修と①与謝野鉄幹・晶子②石川啄木③森鷗外」を中心とした講演会を実施してまいります。2028年は平出修生誕150年。2026年秋季に講演会開催を予定しています。

4 巻菱湖記念時代館

巻菱湖／館柳湾／亀田鵬斎など

PASS
新潟市東区河渡庚296-33
080(4159)2581

当館では、巻菱湖の書を起点に、弘法大師・空海へと連なる思想と書の系譜を通して、日本の文字文化の本質と広がりを紹介しています。書籍『空海の庫を開く』の刊行や関連企画、習字・書写手本の販売等はサイトにてご案内しています。

5 「安吾 風の館」事業室

坂口安吾

新潟市中央区学校町通一番町12
市役所前ビル7階
025(222)3062

新潟市出身の作家、坂口安吾を顕彰するため、遺品・所蔵資料を活用した展示や安吾作品の解説、講演を行っています。ホームページ「坂口安吾デジタルミュージアム」にて情報発信しています。ぜひご覧ください。

6 安吾の会

坂口安吾

新潟市中央区八千代2-1-1
新潟市民映画館シネ・ウインド内
025(243)5530

1987年10月20日発足。会報「安吾雑報」、研究誌「安吾探索ノート」発行。「新潟安吾忌」を主催するほか、読書会や街歩きを実施。「安吾生誕祭」企画・運営。読書会、定例会の日時・会場は直接お問い合わせください。

7 秋艸会(しゅうそうかい)

會津八一

新潟市中央区万代3-1-1
メディアシップ5階會津八一記念館内
025(282)7612

秋艸道人・會津八一を顕彰し文芸に触れる新潟市會津八一記念館友の会です。会報「秋艸」を年2回発行。記念館の企画展等を紹介し八一に関する投稿掲載など全国の会員を繋いでいます。命日(11月21日)には「秋艸道人忌」を主催。

8 全国良寛会

良寛

新潟市中央区南浜通2
北方文化博物館新潟分館内
025(222)2262

「裏を見せ表を見せて散る紅葉」ー良寛はこんな句を残しました。手にした理想の時間を楽しむ歌があります。「この里に手まりつきつ子供らと遊ぶ春日はくれずともよし」。人生の伴侶に、良寛はいかがですか。

9 敦井美術館

敦井榮吉

新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル
025(247)3311

近・現代の日本画・陶芸を中心に、洋画や彫刻・木漆工芸など幅広い所蔵品による企画展を年4回開催しています。2026年度は「色絵磁器の系譜展」「楠部彌次展」などを予定しております。

10 新潟県立図書館

全般

新潟市中央区女池南3-1-2
025(284)6001

1915年の創立から収集してきた蔵書97万冊のうち、約14万冊が新潟県人関係資料を含む郷土資料です。当館ホームページで公開している越後佐渡デジタルライブラリーでは、貴重な郷土資料を画像でご覧いただけます。

11 新潟市會津八一記念館

會津八一

新潟市中央区万代3-1-1
メディアシップ5階
025(282)7612

昨年の開館50周年に続き、今年は八一の没後70年を迎えます。10月から始まる特別展では、唐招提寺の歌碑下に分骨するほど八一が「酷愛」した奈良の寺院を中心とした逸品を展示する予定です。

12 新潟市立中央図書館

會津八一、坂口安吾、中田みづほ、吉屋信子、鷺尾雨工など

新潟市中央区明石2-1-10
025(246)7700

顕彰人物である5人を中心に、新潟市ゆかりの文人についての関連資料を収集しています。2階特別コレクション室では、新潟市ゆかりの文人などをテーマに、出版当時の貴重な資料を含めた企画展を年数回実施しています。

13 新潟市歴史博物館

全般

PASS
新潟市中央区柳島町2-1-0
025(225)6111

信濃川左岸河口部。新潟港に面し、開港場新潟を象徴する重要文化財旧新潟税関庁舎と一体となって整備された博物館。令和8年度は夏季企画展「(仮称) 地図資料からみる新潟の今昔」を開催する予定です。

14 新潟大学旭町学術資料展示館

中田瑞穂ほか

新潟市中央区旭町通2番町746
025(227)2260

第3代(現) 萬代橋と同じ1929(昭和4)年竣工の国登録有形文化財。新潟大学が学術研究を通して収集・蓄積した考古資料・標本類・実験機器などを常設展示するとともに、様々な分野の企画展も開催しています。(日・月休館)

15 新潟良寛会

良寛

新潟市東区太平1-13-23
090(4068)3521

良寛の慈愛の心を楽しく学ぶ会。毎春の総会と記念講演会、良寛・貞心忌法要。秋の研修旅行と年3回の良寛講座や連続公開講座の開催。年2回の会報発行と親睦会、茶話会の集い。会員登録中(年会費3千円)。

16 北方文化博物館

伊藤家ゆかりの人物/その他

PASS
新潟市江南区沢海2-15-25
025(385)2001

越後随一の大地主、伊藤家の遺構を博物館として公開しています。1882年から8年をかけて建設された大邸宅、大広間から眺める池泉回遊式庭園など、新潟の四季とともに地域や地主の歴史、所蔵美術品を紹介しています。鎌倉時代の高僧・雪村友梅の書軸「梅花詩」(重要文化財)を所蔵。

17 新潟市曾我・平澤記念館

曾我量深/平澤興

新潟市南区味方2-13-1
025(373)6600

記念館では、旧味方村名譽村民「曾我量深(第17代大谷大学学長)」、「平澤興(第16代京都大学総長)」おふたりの愛用品や出版物他、功績を讃える遺品を展示しています。

18 雪梁舎美術館

新潟県ゆかりの美術家

新潟市西区山田4-5-1
025(377)1888

86畳敷きの展示室を有する美術館です。毎年夏には美術育成を目的とした全国絵画公募展「フイレんツエ賞展」を開催し、大賞受賞者にイタリア・フイレんツエ市での研修を授与しています。常設展のマイセン磁器、シャガールの版画のほか、年間を通して企画展を催しています。

19 越佐文人研究会

良寛・會津八一の周辺人物

新潟市西蒲区下山3-40-2
025(688)5335

5月新潟市旧齋藤家別邸で新潟市内老舗料亭ゆかりの文芸展を開催。11月総会記念講演会および機関誌29号を発行します。

20 遠藤実記念館 実唱館

遠藤実

新潟市西蒲区越前浜6-9-13-1
025(677)2777

「昭和歌謡の聖地」として、作曲家・遠藤実が心のふるさとである新潟に、その足跡を残した音楽の館。6年ぶりに「遠藤実ソングフェスティバル」全国大会を開催致します。カラオケ喫茶では、自慢の音響でステージで歌えます。

大光銀行

〒940-8651

長岡市大手通1丁目5番地6

<http://www.taikobank.jp/>

大光銀行 検索



地域とともに
第四北越銀行

<https://www.dhbk.co.jp>

第四北越銀行

検索

田村紙商事株式会社
TAMURA TEL:025-272-1211 FAX:025-272-1188

取扱品目

紙製品

洋紙・封筒・ノート・ティッシュペーパー

トイレットペーパー・タオルペーパー

紙おむつ・コピー用紙 他

文房具・事務用品

コクヨ製品 他

(カウネット直営販売店)

『伝えたい』を
多彩に、
クリエイティブに。
<https://www.dip.co.jp/>

DI Palette TEL 025(285)7161 E-mail info@dip.co.jp

本社/〒950-8724 新潟市中央区和合町2丁目4番18号 第一和合ビル



「安全第一で荷主に信頼される会社」
「常に変革し続ける会社」

新潟鉄道荷物株式会社

〒950-0868 新潟市東区紫竹卸新町1808-10
TEL 025-270-5163
FAX 025-270-2183



スマホ防犯は、ALSO K.

HOME ALSO K Connect

ALways Security OK

ALSO K

0120-39-2413

新潟総合警備保障株式会社

<https://www.ngtatsok.co.jp/> 新潟総合警備保障 検索



21

新潟市潟東樋口記念美術館
新潟市潟東歴史民俗資料館

赤塚不二夫／尾竹三兄弟／金子孝信

新潟市西蒲区三方92
0256(86)3444

多岐に渡る樋口顕嗣氏寄贈作品・郷土ゆかりの作家作品(赤塚不二夫・尾竹三兄弟・安宅安五郎・長谷川秋一郎・福富雪底他)・金子孝信作品・ありし日の鑑湯資料を展示しています。また、さまざまな企画展を開催する予定です。

22

新潟市中之口先人館

羽黒山政司、小柳司氣太、大川博

新潟市西蒲区中之口363
025(375)1112

中之口出身でさまざまな分野で活躍した先人の業績を示す資料を展示しています。特に第36代横綱羽黒山政司の資料がたくさん展示されています。ほか小柳司氣太や大川博の資料も展示しています。

24

刀剣伝承館 天田昭次記念館

天田昭次

新発田市月岡温泉827
0254(32)1121

人間国宝・故天田昭次氏が月岡の地で挑んだ、自家製鉄による独創的な刀剣製作。鍛刀技術の追求の結晶を収蔵しています。太刀、脇差、短刀など、一般的な刀剣のみならず、七支刀などの特殊な形状をした刀剣も展示しています。

25

落谷虹児記念館

落谷虹児

新発田市中心4-11-7
0254(23)1013

落谷虹児は、新発田市の出身。大正から昭和にかけて活躍した挿絵画家・詩人です。日本画を学んでいた若き落谷虹児は、竹久夢二にその才能を見出され、挿絵画家としてデビュー。虹児の生涯を、戦前戦後バリ時代までを代表作品で紹介。

27

燕市分水良寛史料館

良寛

燕市上諏訪9-9
0256(97)2428

良寛書の中でも珠玉の名品といわれる国・県指定文化財の作品を春、秋の二回特別展として公開し、県内外の多くの人々から良寛芸術の真髄に触れてもらい、良寛を支えた地域の人と文化風土を再認識し、学習する場とします。

28

阿賀野市立吉田東伍記念博物館

吉田東伍

阿賀野市保田1725-1
0250(68)1200

吉田東伍は日本全土の地名を網羅する『大日本地名辞書』を独力で編さんした歴史地理学のパイオニアです。彼はまた、世阿弥の伝書を発見し、能楽界に画期的貢献をするなど、日本文学史上一ときわ異彩を放つ野人学者でした。

30

国指定重要文化財「渡邊邸」

渡邊萬寿太郎

関川村下関904
0254(64)1002

渡邊家11代当主の渡邊萬寿太郎は、現在の六三三制学校制度の礎となる「関谷学園」の創立に尽力しました。旧関谷村長として、江戸初期から続く渡邊家の「家の掟」に基づき、地域振興・文化発展に貢献しました。

31

三条市歴史民俗産業資料館(本館)

ほまれあ(別館)

松尾与十郎、岩田正巳、渡邊義雄
本館 三条市本町3-1-4
別館 三条市元町1-6

昭和10年建設の旧武徳殿(国登録有形文化財)を利用した資料館です。三条市の歴史や文化、産業を和洋折衷の建造物と共に学ぶことができます。別館では名譽市民の作品等を展示しています。

23

市島邸

市島家ゆかりの人物

新発田市天王1563
0254(32)2555

市島邸資料館では、市島家の歴史を伝える企画展示を行っています。600坪に及ぶ県指定文化財の母屋と桜や約150本の梅の花・紫陽花・紅葉・雪景色など、四季を通して魅力的な回遊式庭園をお楽しみください。

26

燕市長善館史料館

鈴木文臺／鈴木虎雄

長善館ゆかりの人物
0256(93)5400

長善館は、1833年から1912年までの80年間に1000人以上の人材を輩出した私塾です。館内には、塾の歩みや特色ある教育内容、卒業生の業績等を紹介しています。文化勲章を受章した鈴木虎雄博士の漢詩や遺品なども展示しています。

29

春城会

市島春城

阿賀野市山口町2-3-25
春城生誕160年を記念して令和4年9月、生家離れ跡地に宿願の胸像建立が成った。「館」はないが、顕彰と跡地保全のモニタリングができたので一人春城にとどまらず広く郷土の先人に光を当て、歴史・文化情報の受・発信の拠点にしていきたい。

32

諸橋轍次記念館

諸橋轍次

三条市庭月434-1
0256(47)2208

世界的な偉業と讃えられた『大漢和辞典』の編纂者、諸橋轍次。座右の銘は『論語』の「行不由徑」。自然豊かな故郷をこよなく愛し、漢学研究と教育の大道をひたむきに歩んだ諸橋轍次の生涯や功績、その人柄を紹介しています。

33
駒形十吉記念美術館
駒形十吉

長岡市今朝白2-1-14
0258(35)6111
当館は、実業家駒形十吉晩年のコレクションを収蔵、年3回、企画展示を行っています。静かな館内で速水御舟、村上華岳、加山又造、平山郁夫の日本画、加藤九郎の陶芸などゆっくり「寛く」下さい。四季折々に変化する庭もお楽しみいただけます。

34
長岡市河井継之助記念館
河井継之助

長岡市長町1丁目甲1675-1
0258(30)1525
河井継之助の生家跡に建つ記念館で、継之助が暮らした当時の面影が残る庭を眺めることができます。西国遊歴の際に記した旅日記『塵壺』や旅先の九州で購入した蓑などゆかりの品を多数展示しています。

35
新潟県立近代美術館
全般

長岡市千秋3-278-14
0258(28)4111
長岡市の「千秋が原ふるさとの森」にある美術館。地元の収集家による「大光コレクション」を軸に、近代の流れを見通せる国内作品や19世紀の西洋美術、県出身作家を主とした「新潟の美術」など、多くの名品がそろいます。

36
新潟県立歴史博物館
全般

長岡市関原町1丁目字権現堂2247-2
0258(47)6130
常設展示では縄文展示を中心に新潟県の歴史と文化を紹介。昭和30年代の雪国の雁木通りや、縄文人の四季の暮らしを、実物大で復元しており、タイムスリップした気分を味わえます。様々なテーマによる企画展等も開催しています。

37
良寛の里美術館
良寛、由之、貞心尼

長岡市島崎3938
0258(74)3700
良寛が終の棲家とし貞心尼と清らかな師弟愛を紡いだ地にある当美術館は、良寛晩年の優品や敬愛する人々の作品も含めその魅力や思いを探ります。今年は貞心尼との出逢いから二百年を迎え特別展を開催。良寛ゆかりの文化財等貴重な資料を通して二人の温かい交友に触れていただけます。

38
小千谷市ひと・まち・文化
共創拠点ホントカ。
西脇順三郎

小千谷市本町1-13-35
0258(82)2724
西脇順三郎は日本の現代詩に大きな影響を与えた世界的な詩人で、ノーベル文学賞候補にも推薦されました。「ホントカ」。内の西脇順三郎ライブラリーでは、西脇が著した詩集を中心に、絵画や自筆原稿など関係資料を展示しています。

新聞販売 折込総代理 広告代理 出版 保険代理



新潟日報 メディアネット
Niigata Nippo Media Net

■ 黒埼本社

〒950-1179 新潟市西区善久 772-2
新潟日報黒埼本社内
TEL. 025-211-3555 (代表) FAX. 025-211-3556

■ 流通本社

〒950-1125 新潟市西区流通 3-1-1
TEL. 025-233-3311 (代表) FAX. 025-233-3700
<https://www.niigata-mn.co.jp>

お客様に感動を 社会と文化に貢献を

FUJIFILM
株式会社 新潟フジカラー

新潟市東区中央2丁目23番16号
TEL: 025-275-1341 FAX: 025-271-1402
<https://www.fuji-icom.co.jp>

ドコモショップ新潟南店 新潟市中央区上近江1-3-7 TEL: 025-268-0053
ドコモショップ新潟東店 新潟市東区新松崎1-7-5 TEL: 025-296-7522
ドコモショップ新潟中野店 新潟市東区若菜町2-4-5 TEL: 025-282-7752

にいがた元気+

にいがた 健活クラブ

会員募集中 入会費・年会費無料

新潟日報社では、県民が自立し健やかに暮らせるよう、「目指せ!! 健康寿命日本一。にいがたプロジェクト」を展開しています。ともに学び健康づくりを実践する「にいがた健活クラブ」の会員を募集しています。あなたも健康寿命日本一を目指すメンバーになりませんか。



会員特典

- ①メルマガの配信(月2回)
- ②にいがた健活講座のアーカイブ限定公開
- ③健康グッズなどプレゼント

会員登録の方法



こちらからお申し込みいただけます。

「にいがた 健康寿命」検索

◎お問い合わせ 健寿プロジェクト事務局(新潟日報社統合推進センター内) 〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1
TEL.025(385)7473(土日祝日を除く10:00~17:00) メール:genkiplus@niigata-nippo.co.jp

39 ドナルド・キーン・センター 柏崎
ドナルド・キーン

柏崎市諏訪町10-17
0257(28)5755

日本文学研究者のドナルド・キーンをその周辺から紹介しています。一昨年新設した企画展示室にて、本年度は「高橋義樹宛て書簡展(春・秋)」「ドナルド・キーンと平和」など年間3回の企画展の開催を予定しています。

40 魚沼市 宮校二記念館

PASS 魚沼市堀之内117-6
025(794)3800

魚沼の風土が育んだ昭和を代表する歌人宮校二の遺品や図書資料を収蔵・公開しています。校二の書斎を再現する常設展、テーマに基づく企画展、宮校二講座と短歌セミナー、月例短歌教室などを開催しています。宮校二記念館全国短歌大会は毎年多数のご応募をいただいています。

41 池田記念美術館

池田恒雄／その他

南魚沼市浦佐5493-3
025(780)4080

スポーツ専門誌を創刊し出版業界で活躍した池田恒雄がコレクションした美術品やスポーツ関係資料を収蔵、展示しています。その他、文豪小泉八雲の手紙や遺愛の品などを展示する小泉八雲文学資料室もあります。また、企画展を毎年数多く開催しています。

42 鈴木牧之記念館

鈴木牧之

PASS 南魚沼市塩沢1112-2
025(782)9860

豪雪地に生まれた鈴木牧之は、雪深い生活を伝えるため雪の本『北越雪譜(天保8年刊)』を出版しました。雪国の民俗習慣、伝説、産業などについて著された本書は、江戸でベストセラーとなり、当館を代表する展示となっています。

43 南魚沼市トミオカホワイ特美術館

富岡惣一郎

PASS 南魚沼市上薬師堂142
025(775)3646

上越市高田出身の洋画家・富岡惣一郎が描いた「白の世界」シリーズを展示しています。雪の白に魅了され、自ら開発した白油絵の具「トミオカホワイ」と独自の技法で表された白の美を、ご覧ください。

44 良寛記念館

良寛

出雲崎町大字米田1
0258(78)2370

良寛記念館は、僧侶で書家・歌人でもあり「越後の英雄」と呼ばれた良寛の出生地の出雲崎町にある美術館です。年に3回ほどの企画展を行い「日本書道の究極美」といわれる良寛の遺墨を、紹介しています。

多くの企業から、にいがたの文化を発信することにご賛同いただき、無事第11号を発行することができました。また、7年度、法人パスポート会員、維持会員として、あるいはご寄付によってお力添えをいただいた皆様には、ここにお名前を記して心から感謝を申し上げます。引き続きご支援をお願いいたします。

令和7年度年度法人パスポート会員、維持会員、及び協力企業(50音順)
熱いご支援ご協力に
心から感謝申し上げます

イワコンハウス新潟株式会社、株式会社NST新潟総合テレビ、岡三にいがた証券株式会社、グリーン産業株式会社、クリエティブ・サポート株式会社、株式会社コム、株式会社新宣、セコム上信越株式会社、株式会社DI Palette、株式会社大光銀行、株式会社第四北越銀行、田村紙商事株式会社、中越運送株式会社、長岡造形大学、新潟県信用組合、新潟総合警備保障株式会社、国立大学法人新潟大学、株式会社新潟日報社、一般財団法人新潟日報美術振興財団、株式会社新潟放送、公益財団法人ビー・エス・エヌ教育文化振興基金、新潟税理士法人深滝合同事務所、藤木鉄工株式会社、株式会社ブルボン、株式会社本間組、一般財団法人良寛会

あなたと、とことん。
～あなたとつくる、あなたのニュース～

THE TIME,

月-金 あさ5:20-8:00

BSn



新潟税理士法人 深滝合同事務所

代表社員(税理士) 磯部 利行
副所長(税理士) 根本 昌幸
副所長(税理士) 上田 英明
税理士 星野 拓也

- 公益認定・移行申請手続支援業務
- 指定管理者申請手続支援業務
- 法人税・所得税・相続税・各種会計指導・公益法人会計・税務申告・各種税金申告相談等
- 経営計画・資金計画・経営指導・生命保険等



〒950-2024 新潟市西区小新西3丁目15番7号 TEL: 025-267-4843 FAX: 025-265-3314
URL: <https://nigata-zeirishi.tkcnf.com/>



総合広告会社

株式会社
フジ・クリエイティブセンター

〒950-0993 新潟市中央区上中3丁目11番8号
Tel.025-283-6000

<https://www.fuji-cc.co.jp>

45

湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」

川端康成／その他

PASS 湯沢町大字湯沢354-1
025(784)3965

川端康成の小説『雪国』の情景を描いた日本画ギャラリーや、駒子のモデルといわれる芸者・松栄が昭和初期に住んだ部屋の一部を移築再現した「駒子の部屋」が見所。土器や古銭のほか、民具や農具も展示しています。

48

小林古径記念美術館

小林古径

上越市本城町7-1(高田城址公園内)
025(523)8680

小林古径の作品とともに、上越市ゆかりの作家の作品を収集・展示する美術館です。東京都大田区南馬込から移築復元した小林古径邸と、再現された古径の画室もあわせてご覧いただけます。

51

前島記念館

前島密

上越市下池部1317-1
025(524)5550

本館の横に立つ石碑は表は渋沢栄一書、背面には坪内逍遙、市島謙吉、會津八一の撰文による「日本文明の一大恩人がここで生まれた」の書き出しで功績が刻まれています。「日本近代化の父」に相応しい人格者です。

46

岩の原ワイナリー
川上善兵衛記念館

川上善兵衛

上越市大字北方1223
025(528)4002

岩の原葡萄園の創業者であり、「日本のワインぶどうの父」川上善兵衛が取り組んだぶどうの品種交雑やワイン造りの歴史がテーマ別に展示されています。

49

坂口記念館

坂口謹一郎

上越市頸城区鶴ノ木148
025(530)3100

応用微生物学の世界的権威で「酒博士」として知られる坂口謹一郎博士の功績と酒造り道具の展示のほか、敷地内の雪椿の開花にあわせ4月1日から22日まで「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」を開催します。

52

糸魚川歴史民俗資料館
《相馬御風記念館》

相馬御風

PASS 糸魚川市一の宮1-2-2
025(552)7471

明治から昭和にかけて多彩に活躍した郷土の文人・相馬御風の関係資料を中心に収蔵・展示しています。企画展も随時開催しています。糸魚川駅近くの県史跡相馬御風宅にもぜひご来館ください。

47

小川未明文学館

小川未明

上越市本城町8-30 高田図書館内
025(523)1083

「日本近代童話の父」といわれる小川未明のおいちゃや業績、作品が生まれた背景などを紹介しています。未明童話を体験できる仕掛けもあり、毎月第2第4日曜日にはお話し会を開いています。

50

上越市立歴史博物館

全般

上越市本城町7-7(高田城址公園内)
025(524)3120

常設展示では、「越後の都」をテーマに高田城と地域の歴史について資料はもちろん、模型やVR映像を使ってわかりやすく紹介しています。令和8年度は「楊洲周延展(仮称)」などの企画展を開催する予定です。

編集後記

〇：戦後の文化振興に新潟日報社は大きな役割を果たした。その第4代社長が小柳胖氏。會津八一記念館設立に尽力し初代館長となり、八一の顕彰に努めた。戦後80年、新聞人小柳氏の戦争体験をもとに、戦時中の新聞報道を振り返った(3-7ページ)。情報の発信・操作・狙い。当時あったことが、現代の(文化情報の)発信者としての私たちに問いかけられるものは何か。〇：23の館・団体が機関誌・館報など紙媒体を発行していることが分かった。詳細は別のかたちでお知らせします。

利用案内

●開館時間

午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

●休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間
※事情により臨時休館場合があります。

●入館料

一般 500円(400円)
学生(高校生以上) 300円(240円)
中学生以下無料

※()内は団体20名以上
※団体観覧は当館までご連絡ください。

●交通のご案内

新潟駅から…タクシ― 約5分
徒歩 約15分
新潟空港から…タクシ― 約15分

にいがた文化の記憶館

〒950-0088
新潟市中央区万代3-1-1
新潟日報メディアシップ5階
TEL 025(250)7171
FAX 025(250)7040
<http://nmnc.jp>